

2018年3月23日

真昼の悪魔

石橋満

➤ 要約

イグナチオ教会で悪魔の話を書くところから始まる。悪魔の最大の詭計は自分が存在しないように人間に思わせる。

主人公の女医は見知らぬ男と寝る事に不道德感を持たない。悪、罪、不道德を感じない人間だった。

四人の女医は関東女子医大の附属病院の医師である。

浅川女医・難波の主治医、渡来女医、大河内女医、田上女医

難波は結核と診断される。先住者の加能は病院を出て行った。

女医は吉田講師にホームコンサートに誘われ大塚を紹介される。

病院で看護婦の昼食時知能の弱い2人の子供、武と京子の面倒を見る。武を菓子で誘って悪さをする。鼠に京子と名付け武に握り殺させる。後日武は死んだ蜥蜴を握っていた。その蜥蜴を京子と呼んだ。

難波は芳賀と知り合う。難波は芳賀に加能について尋ね、芳賀は加能の行方を調べた。

芳賀と難波が話している間に武が京子を池に突き落とした。病院中大騒ぎとなった。

一方女医は大塚とミュージカルを見に行ったりして交際が進んだ。

女医は常々病院で寝ている老人の中には小林という老女のように早く死んだ方がましだと思ふ年寄りがいると思っていた。

難波の経過は悪く吉田講師から手術を勧められ、落胆する。そんな時医療事故が起きる。芳賀は梶本という看護婦から状況を聞き出した。二人は彼女が誰かに陥れられたのではないかと考えた。

女医と大塚は箱根に行く。女医は大塚の手に針を刺して自分の言う事を聞いてくれるか確かめた。女医は大塚が何もわかってない月並みな俗物だと今更のように感じた。

女医はウッサン神父に会い、悪魔の話をしてこれまでの罪を神父に打ち明けた。

芳賀は加能に会い睡眠療法や催眠療法を受けた話を聞いた。

女医と大塚は軽井沢へ行って小説家の宮島に悪さをして、大塚は女医の本性的を知った。

病院では難波と芳賀が容疑者を絞り込んでいた。難波は犯人から薬を使われて仕返しを受ける。難波は動き過ぎて吉田講師によって神経科に回される。

吉田講師は女医にそそのかされて小林トシを使って人体実験する。

神経科に回された難波は担当医を通して芳賀に助けを求めるが裏切られる。ウッサン神父が来訪して、女医と話し、芳賀も悪魔が宿った人間だと見破った後、難波を助け出す。

大河内女医と大塚は彼女が思った通りに結婚した。病院もいつも通りだった

➤ 各観点

以下の Viewpoints について意見交換。

1. 遠藤周作と宗教観
2. 遠藤周作と心理学 人間の本来の心・深層心理
3. 遠藤周作の超自然科学
4. 遠藤周作の娯楽小説
 - 1) 真昼の悪魔 心理学的側面・宗教的側面・日本の医療制度批評的側面
 - 2) 悪霊の午後 オカルト的怪奇心理小説
5. 遠藤周作作品の文学的側面
作者独特の高度な文学的技法
6. 日本の医療制度 その欠陥
7. 結核と遠藤周作
 - 1) 結核
 - 2) 入院と手術
8. 悪魔とは何か
 - 1) 心理学的側面
 - 2) 宗教的側面
 - 3) 超自然界・霊界的側面
9. 悪魔とサイコパス
 - 1) サイコパスと心理学
 - 2) サイコパスと脳科学・脳外科
10. 作者の他作品との比較
沈黙、海と毒薬

以上